

有機栽培における大玉トマト早熟栽培用の有望品種

有機栽培における大玉トマトの早熟栽培には「桃太郎ホープ」が有望

背景・目的

- ・労働集約型の有機農業経営体では、大玉トマトの早熟栽培が主力品目の一つ
- ・有機栽培では、土壌養分が過剰な圃場が多く、奇形果や生理障害果発生により商品果収量が低下
- ・病害虫被害リスクが高くなることから、長期間の栽培は不可能
- ・病害抵抗性を有し、初期商品果収量が多く、大玉生産が可能な有機栽培向き品種の選定が必要

成果の内容

【早熟栽培に適する「桃太郎ホープ」の特徴】

- ・ 5, 6月の初期の商品果収量が多い(図1)
- ・ 土壌養分が過剰な圃場でも、生産は安定(図1, 表1)
⇒商品果収量:約3.9t/10a以上, 商品果率:70%以上
- ・ 1個重が150g程度の大玉系(表1)
- ・ 複数の病害抵抗性(黄化葉巻病, 葉かび病等)を有する(表1)

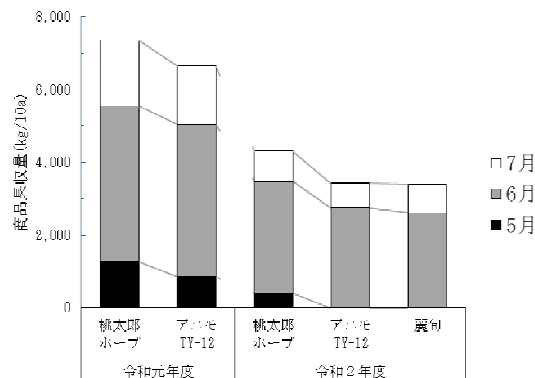


図1 時期別商品果収量(現地圃場)

表1 土壌養分が過剰な圃場における「桃太郎ホープ」の商品果収量(kg/a)と1個重(g)及び病害抵抗性

商品果収量 (kg/10a)	商品果率 (%)	1個重 (g)	病害抵抗性	
			黄化葉巻病	葉かび病
3,889	76	160	○	○

注1) 定植日 : 平成30年4月2日
2) 収穫期間 : 平成30年5月21日~7月10日
3) 植付け前の無機態窒素含量(N03-N) : 72.6mg/100g
4) 試験圃場 : 農開センター

期待される効果

- 早熟栽培トマトの収量増加による経営の安定化



トマト早熟栽培の収穫期の様子

- 普及対象・範囲 有機栽培トマト生産者

鹿児島県農業開発総合センター
園芸作物部野菜研究室